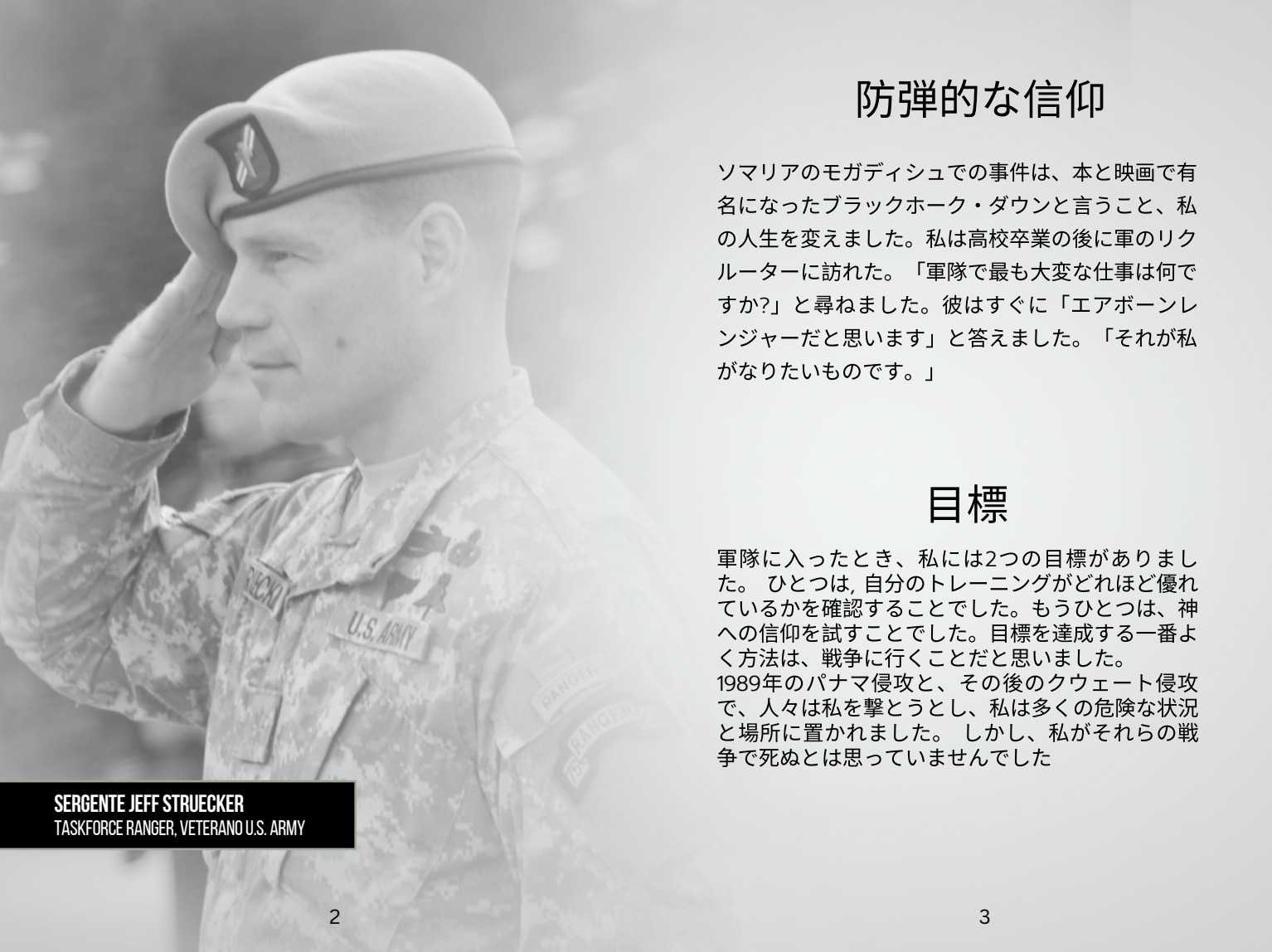


A black and white close-up portrait of a man with short, slightly messy hair, looking off-camera with a slight smile. He is wearing a dark jacket with a circular patch on the shoulder.

jeff
struecker CRU†

防弾的な信仰

ジェフ・ストルーカー
U.S. ARMY RANGER HALL OF FAME



防弾的な信仰

ソマリアのモガディシュでの事件は、本と映画で有名になったブラックホーク・ダウンと言うこと、私の人生を変えました。私は高校卒業の後に軍のリクルーターに訪れた。「軍隊で最も大変な仕事は何ですか?」と尋ねました。彼はすぐに「エアボーンレンジャーだと思います」と答えました。「それが私がなりたいものです。」

目標

軍隊に入ったとき、私には2つの目標がありました。ひとつは、自分のトレーニングがどれほど優れているかを確認することでした。もうひとつは、神への信仰を試すことでした。目標を達成する一番よく方法は、戦争に行くことだと思いました。1989年のパナマ侵攻と、その後のクウェート侵攻で、人々は私を撃とうとし、私は多くの危険な状況と場所に置かれました。しかし、私がそれらの戦争で死ぬとは思っていませんでした

SERGEANT JEFF STRUECKER
TASKFORCE RANGER, VETERANO U.S. ARMY

ソマリア

1993年にモガディシュで、私の人生は変わりました。国連は、このアフリカ国の飢えた人々に食糧を配っていました。ソマリアにはいくつかの軍閥があり、そして彼らのほとんどは、国連との問題を抱えていませんでした。しかし、その軍閥の一人、モハメド・ファラ・エイディッドは、国連が彼の権力に対する脅威だと考えていました。彼は国連職員を待ち伏せして殺し始めました。ある日、彼は24人のパキスタン人を殺しました。

私の部隊の目標は、アディッドと彼の主要な部下を捕らえ、パキスタン人労働者の死のために裁判にかけることでした。

10月3日と4日の最後の任務の前に、レンジャーの部隊は6つの作戦を成功させました。すべてが計画どおりに進んでいました。しかし、ブラックホーク・ダウンと呼ばれるその7番目の任務で、状況は変わりました。

車列

私は24歳の分隊長でした。私と私の9人の兵士は2台のハンビーに乗りました。私たちは10台の車列を率いて市内に入りました。私たちの車列の仕事は、ヘリコプターで屋上や標的の建物の周りに降ろされたレンジャーと特殊作戦部隊を回収することでした。彼らとその捕虜を私たちの基地に戻すように言われました。作戦は、ひとつの例外を除いて、計画どおりに進みました。

ブラックホーク・ヘリコプターのレンジャーに搭乗していたトッド・ブラックバーンは、ファストロープを逃してしまっ、そして、地面に70フィート落下しました。彼は頭に着地し、私たちの医者は、彼がすぐに医療を受けなければ助からないと言いました。目標の建物に到着するとすぐに、司令官が私を呼び、トッドを基地に連れ戻すように言いました。私たちは彼をハンビーに乗せ、2台の車で飛行場に戻り始めました。モガディシュの広さは約14平方マイルで、150万人がソマリア全土から食糧を求めて集まっていました。

ピラーは死んでいる

飛行場に向かうハウロフディグ・ロードに角を曲がったとき、150万人全員がすべての屋上、戸口、窓から私たちに向かって銃撃しているように見えました。私たちを守るために、車両の両側に兵士を配置しました。私が今まで見た中で最高の機関銃手であるドミニク・ピラー軍曹は、私の後ろに座って、私のハンビーの右側にいる敵を撃っていました。敵の攻撃をくぐり抜けると、ソマリア人が AK-47 をドミニクに向けた。両者はともに発砲し、同時に死亡した。ピラーは額を撃たれ、すぐに死亡し、レンジャーのティム・モイニハンの膝の上に倒れました。

ティムはパニックになり、自制心を失い始めました。「ストルーカー軍曹、ドミニク・ピーラーが撃たれました！彼は殴られた！」と叫びました。振り返ると、車の後部全体がピラーの血で赤く塗られているのが見えました。

しばらくの間、私はハンビーのみんなと一緒にパニックになり始めました。私がモイニハンに言えることは、「ティム、ドミニクの代わりになって、右側の標的をすべて倒せ。私たちを生かしておいて必要があります。」

私たちは飛行場に戻り、「生きていてよかった」と思いました。

再び離れる

医師がトッド・ブラックバーンを引き離し、ピラーの遺体を搬送していたとき、私の小隊長は「ブラックホークのヘリコプターが撃墜されました。部下を連れて、街に戻りなさい」と言いました。

「あそこに戻れない」と思いました。私は弾薬と燃料を増やすために部下を令じ、車からドミニク・ピラーの血を取り除き始めました。「神様、私は今夜死ぬだろう」と思いました。この状況を生き残る方法はないと私は完全に信じていました

神様、あなたが必要です

私は何をすべきか、何を言うべきかわからなかった。このような状況でキリスト教徒なら誰でもすることをしました。私は神に祈りました。私は神と交渉しませんでしたし、天からの大きな声も聞こえませんでした。私はただ言った、「神様、あなたの助けが必要です。私は頭がいっぱいです！」それから私は、イエスが亡くなる前夜、ゲツセマナの園でイエスを思い浮かべました。* イエスが十字架にかかる前に神にひざまずき、祈っていた姿を私は思い浮かべました。まるでイエスが私のすぐ隣にいるかのように、「神様、可能な方法があれば、この（苦しみの）杯を私から過ぎ去らせてください」と言うのが聞こえました。私はその同じ言葉を祈りました。そのとき、イエスが次に言われたことを思い出しました。「それでも、わたしの望むことではなく、あなたの望まれることを」。

その瞬間、13歳でキリスト教徒になったときに聞いたことに気づきました。キリスト教徒として、この人生で何が起ころうとも、生きていようが死んでいようが、私の人生はしっかりと神の手に委ねられているということです。

妻のドーンはちょうど手紙を書いて、彼女が妊娠していると私に知らせました。二度と彼女に会ったり、私の子供を抱いたりすることはないと思いました。

もし神の奇跡によってこの状況を乗り切ったなら、私は家族のいる家に帰るだろう。キリスト教徒として、もし自分が死んだら、天国にある家に行き、救い主と一緒にいることも知っていました。だから、今夜私に何が起ころうとも、私は家に帰り、安全になるだろうと思いました。

もう恐れない

その瞬間から、私は恐怖を感じなくなりました。私はまだ誰も生き残れないと信じていました。私はただ、「神よ、これ以上私の兵士を死なせないください」と祈りました。

街に戻るために車に乗り込むと、私の部下の一人、ブラッド・トーマスが私のところに来ました。彼は言いました、「私には妻と家族が家にいます。私は行けない、私は死ぬことを知っている。」

私は言いました、「怖いです。私たちは皆恐れています。実際、恐れていなければ、心理的に何か問題があります。でも、ブラッド、怖いからって自分を臆病者だと思わないで。ヒーローと臆病者の違いは恐怖ではなく、恐怖に対して何をしますかです。あなたを行かせることができませんが、あなたの助けが必要です。」

私は彼を放っておいて、自分の車に乗り込みました。バックミラーで、ブラッドが武器を手を取っているのを見ました。彼はその夜死ぬことを期待して車に戻った。彼は任務のために自分の命を喜んで差し出すと感じました。門を出たとき、私は彼をとっても誇りに思いました。

私たちは2度目に基地を出ました。ソマリア人は、すべての交差点で道路封鎖を行い、タイヤを燃やしていました。彼らは武器やグレネードランチャーを10フィートも離れていないところから私たちに向けて発射しました。奇跡的に、私の部下は誰も殺されませんでした。

すぐに、ハンビーが破壊されたレンジャーのグループに会いました。何人かが殺され、他の人が負傷した。彼らの車は機能していなかったので、私たちは彼らを私たちの車に乗せ込み、基地に戻しました。

「無事だ、全員脱出した。大丈夫だ!」と思いました。

もう一度離れる

それから私の指揮官は、「私たちの部下の半分がまだ街にいる」と私たちに言い、私たちを3度目に送り返しました。

私たちはもっと助けが必要で、近くに駐留していた国連軍は戦車と装甲車で私たちを助けるように頼まれました。2台のパキスタン戦車とマレーシアの装甲車を含む長い車列が組み立てられ、私たちの部下を救出しました。「きっとソマリア人は装甲車と戦おうとしないだろう」と私は思いました。しかし、戦車が大通りを曲がるとすぐに、すべてのソマリアの武器が発砲し始めました。

次の12時間、護送船団は街に向かって戦いました。部下を回収できたのは翌朝の午前8時でした。私のハンビーは、最後の戦車の後を追うよう命じられました。「戦車は私たちより先に出発しますか?」と私は独り言を言いました。私は機関銃手であるブラッド・ポールソンに、「私たちは最後に出る車両になるので、銃を後ろに向けてください。私たちの後ろにいる全員が敵だからです」と言いました。

私たちは約1マイル運転していたとき、「軍曹、私たちの後ろを走っている男たちがいます。」、ブラッドが言いました。私が見ると、15人のアメリカ兵が死ぬほど怖がっているように見え、道路を駆け下り、左右の的に向かって撃っていました。市内に15人の兵士が残されていました!私は車列を私たちなしで行かせることにしました。私たちは戻ってきて、男たちを迎えに行き、安全な場所に追いやりました。

なぜこれが起こったのですか?

スタジアムで見たものは決して忘れません。私に印象を与えたのは弾丸や血ではなく、私が長い間一緒に働いてきた男性でした。私はソマリアに行くずっと前から、私がキリスト教徒であることを彼らに知らせ、私の信仰を彼らと分かち合おうとしていました。しかし、彼らは気にしませんでした。

10月4日、戦闘に強いレンジャーたちが目に涙を浮かべ、たくさんの質問をして私のところにやってきました。彼らは次のような質問をしました。「私たちは世界一になるはずですか?なぜ神はそれが起こるのを許したのでしょうか?亡くなったばかりの友人はどうなりましたか?あの街に戻って私が死んだら、どうなるの?私はどこに行きますか?」

答え

これらの質問のほとんどに対するすべての答えを持っていただけではありませんが、答えがわかっている質問が1つありました。明日死ぬとしたら、次に何が起こるか？ 次の数日間、私はできるだけ多くの人に、あなたが死んだ後に何が起こるかを話しました。「答えは聖書に書いてあります」と私は言いました。「人間には、一度だけ死んで、その後裁きを受けることが定められています。」**あなたがいつ死ぬかはわかりませんが、誰もが死んで、すぐに神の裁きの座の前に立つことはわかっています。キリスト教徒とそうでない人の違いは、キリスト教徒が神の前に立つとき、自分の罪の罰を受けないということです。彼らが自分で悪いことをしたことで非難されることはありません。***

イエス・キリストは、その夜、ゲツセメネの園で祈ったとき、人が神に対して正しくされる唯一の方法は、イエスが彼らの代わりに死ぬことであるということを知っていました。彼は、人が神のもとに来る道を作るために、使命を全うする決断を下しました。彼が十字架で死んだとき、彼は私たち犯したすべての過ち、つまり過去、現在、未来に対して罰をお支払いになりました。

一人一人は、イエスを自分の救い主として信頼したことがない人たちです。これらの人たちは、彼らの罪の完全な結果、つまり神からの永遠の分離に苦しむことになります。第二の人たちは、「私はイエス・キリストだけに信頼と信仰を置いています。彼があのかの十字架で死んだとき、彼は私の罪の罰を受けられたと私は信じています。」と言います。彼らは天国で永遠に神と共に過ごします。

もしあなたが今死んだら、あなたが天国に行くことを確実に知っていると言えますか？ あなたが神の前に立つとき、イエスがあなたのために十字架でなされたことのゆえに、あなたは許しの状態にあるでしょうか、それとも自分の罪のために非難されますか？ もしあなたが今死んだら、「天国で神と永遠に過ごすことになる」と完全に確信を持っている」と完全に確信を持って言えなければ、イエスに救い主になるように頼まないで残りの人生を歩むのは自殺のようなものです。

神に誓いを立て、神との関係を永遠に解決する機会をあなたに与えたいと思います。イエスは、あなたが求めるなら、彼はあなたの人生に入り、あなたの罪を赦し、あなたに永遠の命を与えてくださると言いました。これはあなたが祈ることのできる簡単な祈りです。「イエス様、私の罪の償いのために十字架で死んでくださったことに感謝します。あなたは私の人生に入り、私の罪を赦し、私に永遠の命を与えると約束しました。私はあなたが嘘をつかないことを知っているので、あなたが約束したように私の人生に入ってくれたことに感謝します。今日から私は、あなたが私の中に生きているというあなたの言葉を信じます。アーメン。」

*マタイの福音書 24 章26節-29節

**へブル人への手紙 9章27節

***ヨハネの福音書 3章17節-18節

CONTATTAMI

Se hai fatto questa preghiera ti invito a contattarmi:

Bullet Proof Faith © 2023 Cru. Tutti i diritti riservati. Copie consentite ad uso personale e non commerciale. Originariamente stampato in inglese col titolo Bullet Proof Faith © 2002, 2013, 2023 Cru.

Per maggiori informazioni:

WWW.BPFAITH.COM



WWW.BPFAITH.COM

防弾的な信仰

“

イエス様に救い主を求めず
に残りの人生を歩むのは自
殺のようなものです。



jeff
struecker cru

WWW.JEFFSTRUECKER.COM

